

東通村漁業連合研究会通常総会開催

1月16日（土）、東通村漁業連合研究会（川口浩会長、猿ヶ森漁業研究会）通常総会が開催されました。

開会にあたり、永年にわたり漁業研究活動にご尽力された5名の方に川口会長から表彰状と記念品が贈呈されました。

総会では、川口会長の挨拶に続き、越善靖夫村長が「水産業を取り巻く環境は燃油や資材の高騰と依然厳しい状況にあるため、漁港や水産施設の基盤整備・保全を継続し、サケ、マス、ヒラメ、アワビ等の稚魚、稚貝を放流し「つくり育てる漁業」の一層の推進を図ってまいります。」と祝辞を述べ、続いて、丹内俊範村議会議長からも祝辞が述べられました。

また、議事では、平成27年度事業報告及び収支決算、平成28年度事業計画と収支予算が承認され、（地独）青森県産業技術センター 水産総合研究所 伊藤欣吾 資源管理部長からは「脱出口付きミズダコ改良籠について」と題し講演がありました。

表彰された皆さんおめでとうございます。



東通村漁業連合研究会表彰状授与者		
所属	氏名	備考
尻屋漁業研究会	川端 昭也	感謝状
尻屋漁業研究会	梶谷 収	特別表彰
白糠漁業研究会	東田 丈彦	会員表彰
白糠漁業研究会	遠山 和仁	会員表彰
白糠漁業研究会	遠山 広樹	会員表彰

尻屋漁業研究会が優秀賞を受賞！ 全国大会へ！

1月27日（水）、県民福祉プラザ（青森市）において第57回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会が開催されました。

この大会は、県内漁村青壮年女性団体が一堂に会し、活動実績の発表を通して知識の交換と活動意欲の向上を図り、沿岸漁業の振興及び漁村生活改善等に寄与することを目的に毎年開催されています。

本年度は、技術部門4団体から発表が行われ、当村からは尻屋漁業研究会（濱端元一会長）の南谷彰人氏が参加し、「半世紀にわたる漁場造成の歩みーこれからも尻屋の海とともにー」と題して発表しました。

尻屋漁業研究会は、コンブ資源増大のために取り組んできた立縄式増殖施設の設置や磯根資源調査の概要、6月の1年目コンブ資源量や1月下旬の水温データを基にした豊凶予測手法の開発、空ウニの移植放流による身入り向上策等について発表し、研究会が設立された昭和38年から一貫して、「海藻が繁茂し、磯根資源の豊かな漁場づくり」を目指して、多くの活動に取り組んできたことを紹介しました。

審査の結果、青森県内でも有数の水揚げを誇るコンブやウニ、アワビ等の磯根資源を守り育ててきた取組が評価され、尻屋漁業研究会が見事優秀賞を受賞しました。2017年3月に開催される全国大会で青森県代表として発表することが決まり、改めて意欲を燃やしていました。



写真提供：むつ水産事務所